

校長室だより

No. 27

平成30年11月2日(金)

強く やさしく

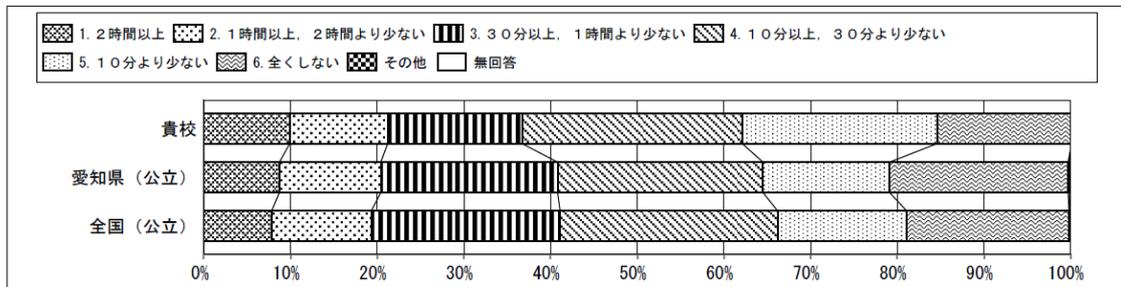
六ツ美中部小学校校長

かとうよし かざ
加藤嘉一

今年も頑張ります 子供の読書習慣の向上

―秋のもみじ読書週間 10月31日(水)～14日(水)―

質問番号	質問事項										
(15)	学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)										
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他	無回答
貴校	9.9	11.3	15.5	25.4	22.5	15.5				0.0	0.0
愛知県(公立)	8.7	11.7	20.4	23.7	14.6	20.6				0.1	0.1
全国(公立)	7.8	11.5	21.8	25.1	14.9	18.7				0.1	0.1



上記データは、本年度の本校6年生が行った全国学力・学習状況調査・質問紙調査の結果です。6年生の読書時間の特徴は、全国に比べ「2時間以上」の子供が多かったことと「6 全くしない」の子供の割合がやや少なかったことがよかった点である反面、「3 30分以上」や「4 10分以上」読書をしている子供の総数が、全国に比べやや低い状況にあることが課題である点でした。読書が「5 10分より少ない」の子供が多いことも、本校の大きな特徴です。この子供たちが、本に親しみ、より長く読書をするようになるとよいと考えます。

また毎年3学期に行う「学校診断アンケート」において、過去3年間の結果を見てみますと、「進んで本を読む」の項目の「◎よく当てはまる」「○やや当てはまる」の回答率が、他に比べ低い結果です。

【平成29年度 学校診断アンケートより】

<児童質問> 進んで本を読んでいますか。

◎よく当てはまる 40% ○やや当てはまる 29% (◎+○前年度より+4ポイント)

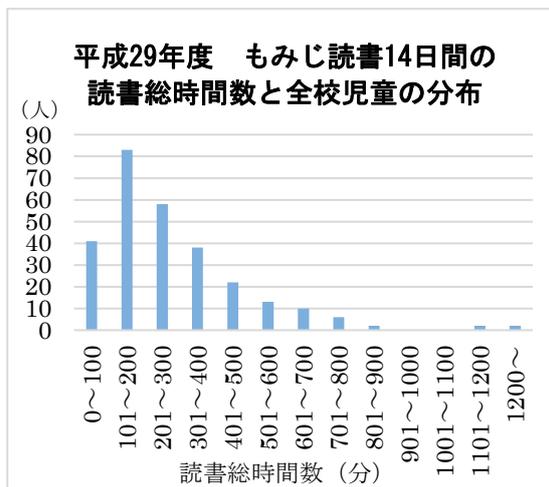
<保護者質問> お子さんは、進んで本を読んでいる。

◎よく当てはまる 23% ○やや当てはまる 28% (◎+○前年度より+3ポイント)

この結果を改善しようと、一昨年より「教員による読み聞かせ時間の新設」「読書週間のカードの改善(読書ページ数の記録)」「図書集会の工夫」、さらに昨年度は「家庭読書時間の記録『よむちょ』カードの作成」を行ってきました。

その結果、前ページの「学校診断アンケート」結果の（ ）にありますように、前年度に比べ「進んで本を読んでいますか」の質問に対し、「◎当てはまる」＋「○やや当てはまる」の回答率が伸びてきており、改善が見られてきています。本年度さらに改善されるよう努力していきたいと思えます。

本年度は、図書主任の柴田先生が「家庭読書ページの記録『もみじ読書カード』の作成」をしてくださいました。図書委員会の活動も工夫を凝らしてくれています。このほかにも、今年は先生の「おすすめの本」を次週紹介したいと思います。御家庭でも読書習慣がつくよう、「いい本読んでるね。わたしも今こんな本読んで面白よ」と読書する姿をお見せいただき、『もみじ読書カード』の「家の人サイン」を記入してもらえるとよいと思えます。



ちなみに、昨年度の読書週間の記録を右に掲載します。読書時間も参考にしてください。

H29 読書週間記録	1年	2年	3年	4年	5年	6年
学年1日平均(分)	13.0	14.9	21.4	22.6	24.9	19.8
最長者1日平均(分)	34.3	47.5	145.7	63.6	85.6	39.1

教員の学芸会「振り返り」

学芸会が終わりました。自己の成長が自覚できるよう振り返りを先生方をお願いしました。先生方も指導記録に振り返りをされていました。一部紹介します。

【A先生 教師メモ】

学芸会に向けてこれまで学年としてやってきたことを振り返った。〈略〉劇を作っている段階で、自分たちでもっとこうするといいなと工夫する力の弱さを感じていた。そして、ある程度劇が形になった段階では、自分たちに満足している子供がいた。これではまずいと思い、下見の際のビデオを見せ、話をしていた。一番の課題は、一人一人のやる気を形にすることの差だと感じていた。しかも校内学芸会の後はかなり満足したためか、次の日に微調整をしようとする、受け身でいる子供の姿を感じた。そこで学年の先生で話し合い、子供たちだけでどう修正するかを考えさせることにした。最後の二日間は、自分たちで話し合い、改善点と練習メニューを考えさせた。練習が一区切りするたびに、どうだったかを子供が子供に伝えるような形にした。すると少しずつ自分たちで作り上げる勢いが見られるようになった。子供たちが主体的に行動し始めた。終わったときに、結果のすばらしさをほめるとともに、主体的に取り組む姿に変わったことの価値(すばらしさ)を話した。学芸会だけでなく、ほかの面でも自分でやることの楽しさを感じ、行動する子供になってほしいと思った。